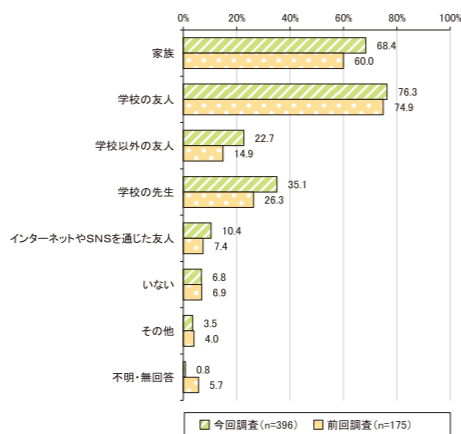


# 中学生への意識調査

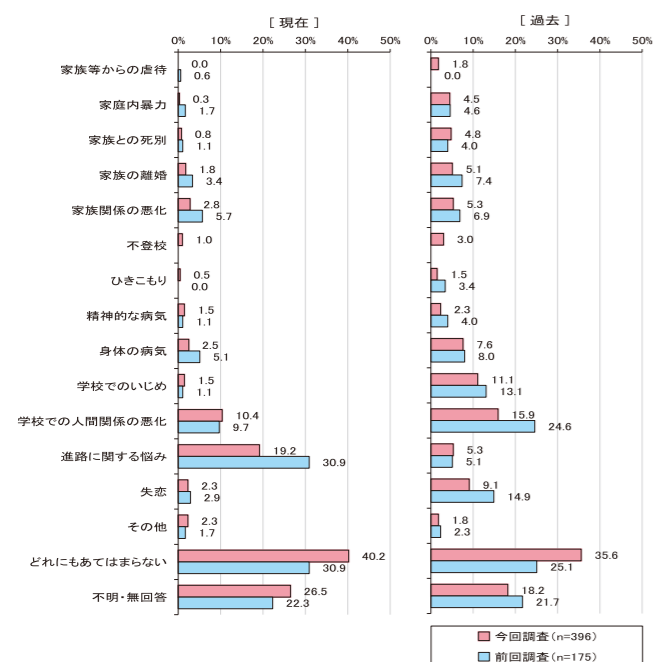
## あなたが不満や悩みがあるときの相談相手(複数回答)

不満や悩みがあるときの相談相手についてみると、「学校の友人」が76.3%と最も高く、次いで「家族」が68.4%、「学校の先生」が35.1%となっています。前回調査と比較すると、「家族」が8.4ポイント、「学校以外の友人」が7.8ポイント、「学校の先生」が8.8ポイント増加しています。  
※今回調査の選択肢「家族」は、前回調査では「同居の家族」



※今回調査の選択肢「家族」は、前回調査では「同居の家族」

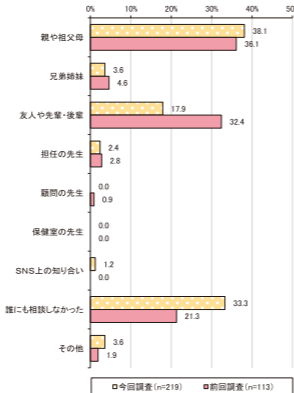
## 現在または過去において、あなたが経験していること



経験した体験に対して、まず誰に相談したかについてみると、「親や祖父母」が38.1%と最も高く、次いで「誰にも相談しなかった」が33.3%となっています。  
前回調査と比較すると、「親や祖父母」が2.0ポイント、「誰にも相談しなかった」が12.0ポイント増加し、「友人や先輩・後輩」が14.5ポイント減少しており、一人で抱え込んでいる状況が深刻化しています。

※今回調査の選択肢「SNS上の知り合い」は、前回調査では「インターネット」  
※不明・無回答を除いて集計

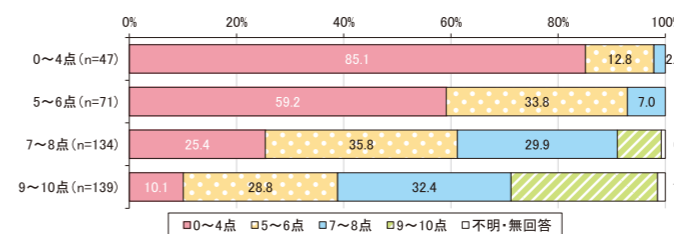
## 左の問題に対してまず相談した相手



※今回調査の選択肢「SNS上の知り合い」は、前回調査では「インターネット」  
※不明・無回答を除いて集計

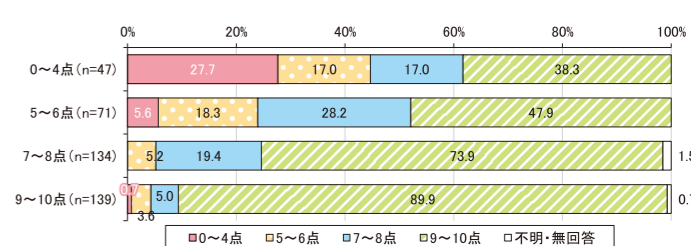
## 自分自身のことが好きか × 現在の幸福度

幸福度別に自分のことが好きか、大事に育てられたと思うかをみると、点数が低いほど、幸福度の点数も低くなっています。



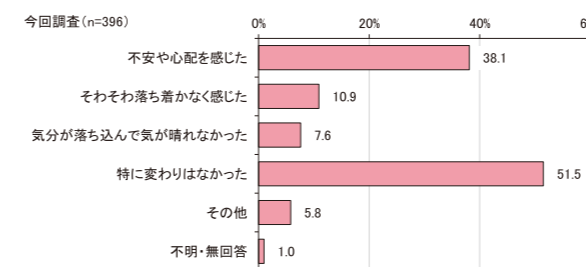
## 大事に育てられたと思うか × 現在の幸福度

幸福度別に大事に育てられたと思うかをみると、点数が低いほど、幸福度の点数も低くなっています。



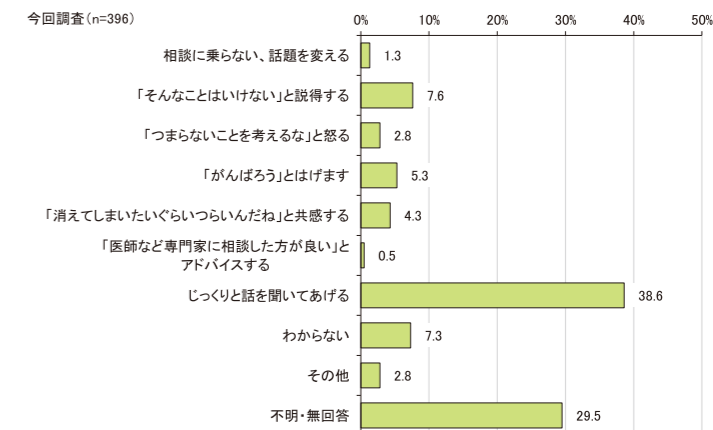
## コロナ禍において、気持ちの変化があったか。

コロナ禍において、気持ちの変化があったかについてみると、「不安や心配を感じた」が38.1%、「そろそろ落ち着かなく感じた」が10.9%となっています。半数以上の生徒が気持ちの面でコロナ禍の影響を受けているといえます。



## 身近な人から「消えてしまいたくなったり、いなくなってしまうたい」と打ち明けられたときの対応方法。

身近な人から「消えてしまいたくなったり、いなくなってしまうたい」と打ち明けられたとき、どのように対応するのが良いと思うかについてみると、「じっくりと話を聞いてあげる」が38.6%と最も高く、リスクが高い人への対応として傾聴が大切であるという状況が浸透している状況がみられます。  
※前回調査の設問…もし、身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、あなたはどのように対応するのが良いと思いますか。



## 住民意識調査自由回答(一部抜粋)

- このアンケートを自殺対策に生かしてほしい。
- いじめや自殺のない社会になってほしい。
- 幼少期から人生のすばらしさや自尊感情、道徳心の大切さを教えるべきである。
- 身近な人が変化にすぐ気づいて声をかけるのが大事である。
- 精神保健医療の整備、メンタルケアの充実が必要。
- 自殺対策は難しいので、長時間かけて地道に取り組んでほしい。

## 中学生意識調査自由回答(一部抜粋)

- 改めて考え直す機会になった。
- いじめや自殺してしまう人を支えることにつながるし、勉強にもなる。
- もっと命の大切さを知らせるべきだと思う。
- 自分の今の状況が分かってよかった。自分の周りは安心できると分かった。学校っていいところだと思った。自分のやるべきことが分かった。
- 嫌なことがあっても言にくいと思うから言いやすい環境を作るといい。
- 相談したいけどできない人がいると思うし、自分一人で色々なことを抱え込んでいる人などが安心して相談できる場所、サインをつくる取組はいいと思う。
- 命の大切さについて考えてもつらいと感じる人がいるなら、つらいと感じる人が減る取組をしてほしい。言い出せない人や一人であることが多い人に誰でもいいから声をかける人が増えるようになってほしい。
- 「人生って何かな」と考える時があるが答えは分からない。「最高の人生の終わり方をすれば答えが分かるかもしれない」ので今生きている人には人生をしっかり歩んでその答えを見つけてほしい。

## 意識調査の結果から課題となったこと

### <幸福度・自尊感情と自殺のリスクの関係>

主観的な幸福度が低いほど自殺リスクが高い傾向が見られます。また、幸福度と自尊感情等にも相関関係がみられることから、自分を大切に思う気持ちを育てることが、将来的な自殺リスクを低下させることにもつながると考えられます。

### <友人関係・近所づきあいなどの希薄化>

コロナ禍を経て、友人関係や近所づきあなどが希薄化し、家族との関係にも影響を及ぼしている可能性があります。

### <必要とする人に情報や支援を届ける重要性>

自殺リスクが高い人ほど適切な情報や支援が届いていない可能性が伺えます。中学生では悩みや不安を「誰にも相談しなかった」が多く、一人で抱え込んでいる状況も伺えます。また、相談相手は同居の親族(家族)、友人の順に多く、身近な人へ相談をすることが多い現状があります。身近なそれぞれが気づきや適切な相談対応方法を知っておく必要があります。

町では、これらの結果を踏まえて次期計画を策定し、誰も取り残されないまちづくりを推進してまいります。